

GOODMAN DERRICK LLP

プレスリリース：2015年5月21日

ランチア・ストラトスのコレクションの所有権を巡る父親 対息子の訴訟：クリス・フラバレック氏の声明

高等法院でのエルンスト・フラバレックとその息子クリスの、4台のランチア・ストラトスのコレクションの所有権を巡る争いは、今年の2月にロンドンで裁判にかけられていたが、今日(5月21日)、高等法院より判決が言い渡された。エルンスト・フラバレックの主張は15年以上にわたって繰り返し息子に車を貸していただけだったという一方で、クリス・フラバレックは自分が最初の学位を取った2000年に、父親が彼に車を贈与したと信じていたという。法廷はエルンスト・フラバレックがクリスに車を贈呈したと人々に信じさせるようにしたことを認めたが、エルンストがそういった人々を誤解させてしまったと感じていた。結果として法廷は、クリスに車は贈与されなかったという、エルンスト・フラバレックを支持する結論に達した。

クリス・フラバレックは以下のようにコメントしている。「訴訟というのはいつもいやなものだけど、それが近親者に関わるものとなると、10倍いやなものです。この裁判の結果には非情に失望しています。父との間のこの争いはすでに4年以上も続いていて、3カ国にも及んできました。オーストリアとドイツでの裁判結果は私を支持していたという事実が、今回の英国の高等法院を特別に厳しくしています。私自身にとって1番重要なのは、今回のことが引き起こした父との不和に対する深い個人的な悲しみですが、私はまだ自分がこれらの車の正当な所有者だと信じているし、今後も自分の正当な権利を追求するつもりです。まずは高等法院の判決に対する上告の許可を求めること、それから国外での可能な解決策を検討することから始めるつもりです」

クリス・フラバレックの弁護を依頼されたGoodman Derrickの事務弁護士、ナイジェル・アダムスは以下のように付け加えた。「いつだってこのように目撃証言次第の非情に際どいケースになるものです。今回の件のように、車は与えられたものだったのか、それとも貸したものだといった点について父親と息子が異なる理解をしている場合、敗訴側にとっては特に辛いものです。感情的な痛みだけでなく、事実、クリスは何年にもわたって非情に多くの時間、労力、そしてお金をかけて、まずはこの車のコレクションを組み立て、そしてその後、父親が自分に贈与してくれたのだと信じたときからは、車の宣伝を行ったり、多くのクラシックカーのイベントなどで展示するなどしてこれらの車の価値を高めてきたのです」

一方、クリス・フラバレックを代弁した法廷弁護士、4 New Squareのカール・トロマンはクラシックカーの所有権に関する争いはより頻繁に起こるようになってきていると言う。「クラシックカーや歴史的な車の価値の最近の上昇に伴って、ナイジェルや私がアドバイスを求められるケースの数は増加しています。所有権についての質問、車のアイデンティティーまたは出所に関する議論などさまざまなケースを見てきていますが、もっと多いのは、非情に貴重な歴史のあるレースカーにダメージが発生したレース中の事故から生まれる苦情、要求などです」

編集注記

Goodman Derrick LLP, 10 St Bride Street, London EC4A 4ADを代表して配信されました。

詳細情報については、以下へご連絡ください:

ナイジェル・アダムス、Goodman Derrickパートナー、nadams@gdlaw.co.uk または +44 (0)20 7421 7958; または、

ジェームス・コールフィールド、Goodman Derrickビジネスディベロップメント部長、jcaulfield@gdlaw.co.uk または +44 (0)7815 846 124

Goodman Derrickはロンドンにある有数の商業法律事務所です。高品質のリーガルアドバイス、また依頼人の意見を重要視する際立ったサービスを提供しています。

- 30名の経験豊富なパートナーが管理する、専門分野、セクターによって分かれた 90名編成の事務所です。
- 独立した法律専門家ガイド、Chambers & PartnersとLegal 500において、トップ弁護士事務所として推薦されています。
- 「あなたの信頼を勝ち取り、決してそれを失うことのない事務所だ」チェンバース&パートナーズ 法律専門家ガイド
- 世界の独立系法律事務所のネットワーク、Legal Netlink Associationの一員です。